

家のあり方を考える

No.539

超高齢社会、空き家増加などを含む2025年問題の到来は、これから住まいのあり方を真剣に考える良い機会です。

まずは、家の在り方。

地震に強く、断熱性の高い省エネ住宅は、とても

大事な考え方です。しかし、どんなに高性能な家

であっても、ライフスタイルの変化に柔軟に対応できない家は、ドアの開

閉、開口部、段差など、

リフォーム発生のリスクを常に抱えます。これからの住まいには、家族構

成、年齢、性別、障害、

文化、病気ケガなど、多様性を受容するバリアフリーユニバーサルデザイ

ンがもつとも大切です。次に、環境のあり方。

国は、生産年齢人口の減少や人材不足に伴い、地域包括ケアシステムの構築を推奨しています。今

後、行政の

支援は、全

地域平等の

支援から、

人口集約型

のエリア支

援に変わっていきます。

人口密度の低い郊外にお

いては、独自のコミュニティづくりも必要でし

ょう。

ここで質問ですが、左

利きの方は、右利き社会の中で、様々な不自由さを感じています。しか

し、この世がすべて左利

きの人であれば、どうで

しょうか。また、車いす

の方はかりの世界に、段

差や階段などは、存在す

るでしょうか？これらが

意味することは、バリア

(障害) というのは人で

はなく、環境にあるとい

うことを示

す。

功 しいま

す。

鈴 木

の 方 が 暮 ら

し や す い 町 会、 認 知 症 の

方 に と つ て 安 心 安 全 な マ

ン シ ョ ン、 特 別 支 援 学 校

に 通 う 子 ど も が 喜 ぶ サ ー

ビス 付 き の エ リ ア な ど、

同 じ 様 な 暮 ら し の 不 自 由

さ を 感 じ て い る 方 々 が 自

然 と 集 ま る 環 境 づ くり が

企業は、社会の問題解

決となる住まいづくりや

独自性のあるコンテンツ

を創造し、行政は、そこ

で生まれたコミュニティ

一ならではの生活支援を

強化する。暮らす人の喜

びは高まり、持続可能な

ビジネスモデルが確立し

ます。まさに、三方良し

のまちづくりです。

今まで“人生折り返し”

という言葉を耳にしまし

た。これからは人生の3

度の節目を意識する“人

生100年時代”です。

個人も企業も行政も互い

に手を取り、30年前を大

切に30年先の未来を真剣

に考える時代が来たのだ

と、私は感じておりま

す。

(柏心暮らしまもり隊

会長)

